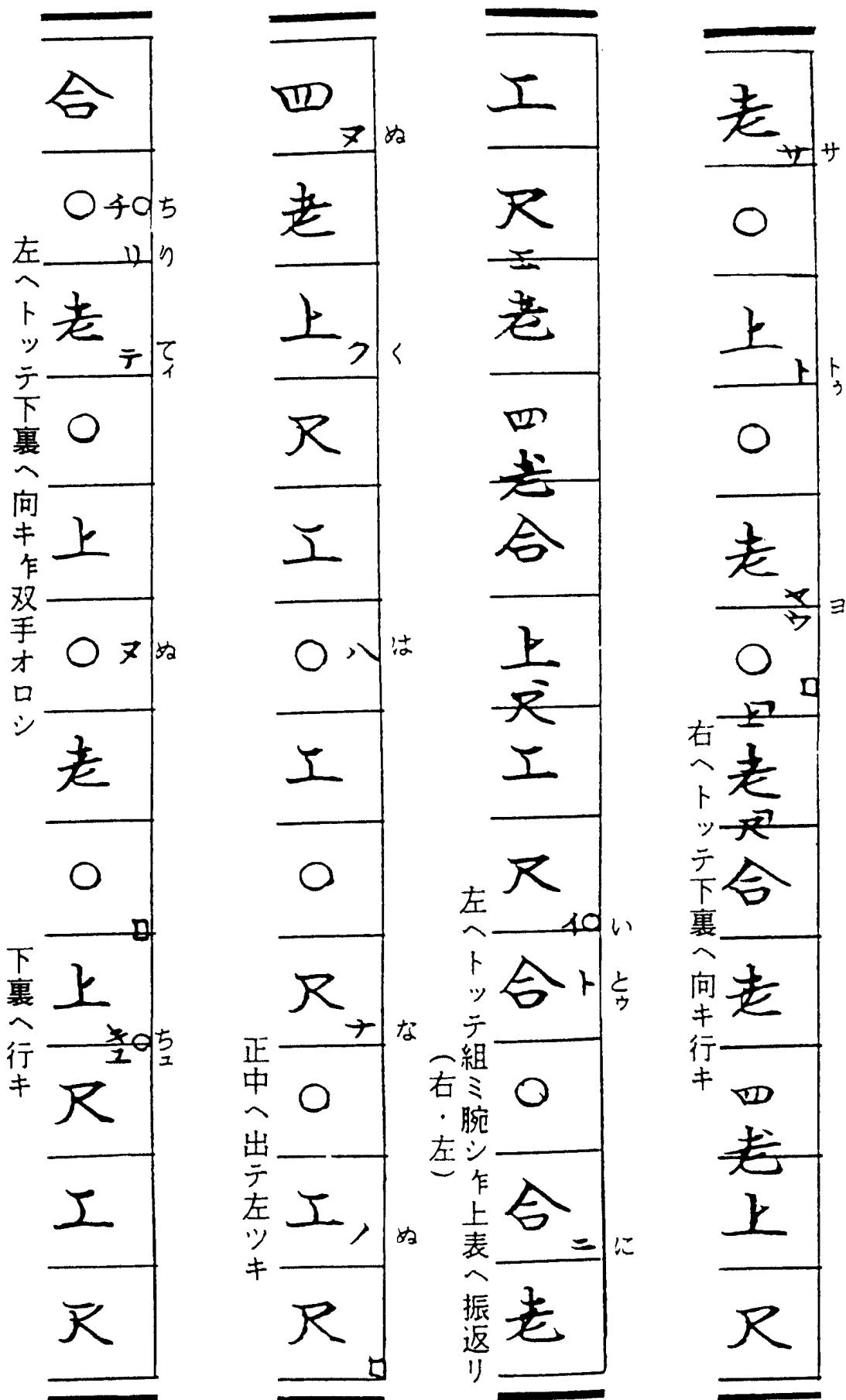
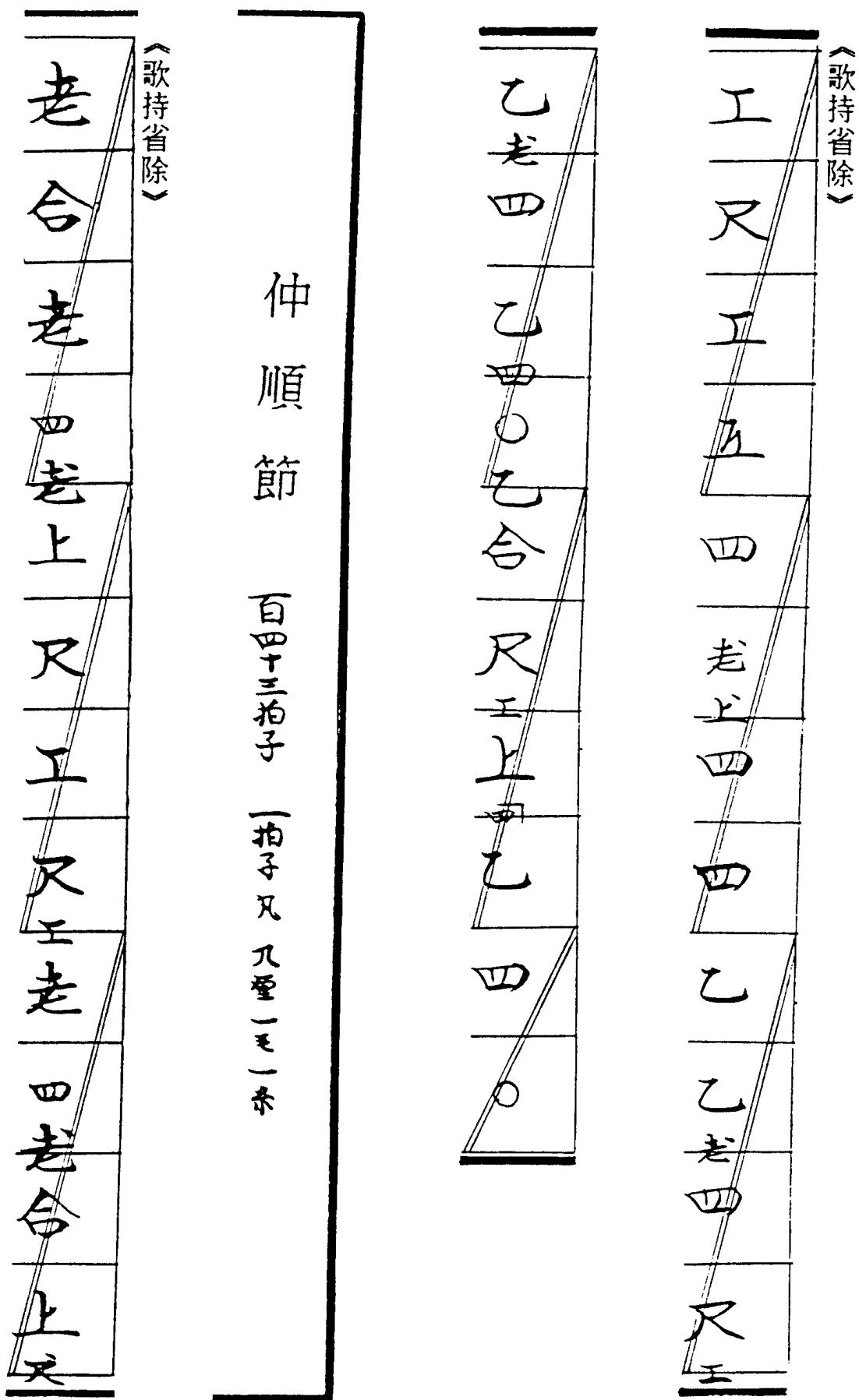
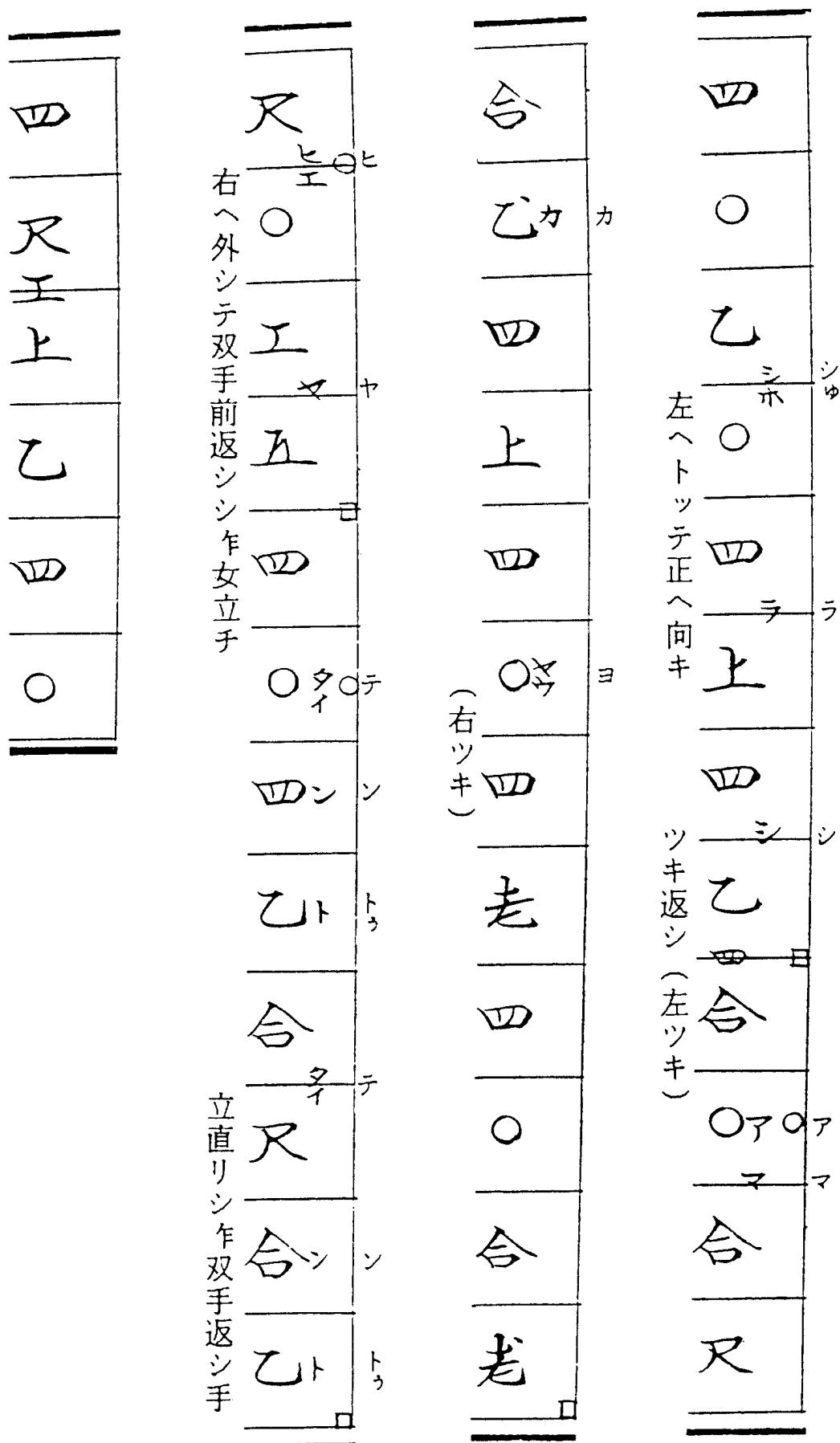


歌持デ退場	上	上	上
	尺	○ミ	○メ
	工	老サ	四
	尺王	○	老
	老	上ト	合
	四	○	○コロ
	老合	老マ	レ
	上	○	合
	尺	○	○ン
	工	上ト	走
	尺	老マ	○デ
	合	上ト	上
	○	老マ	尺

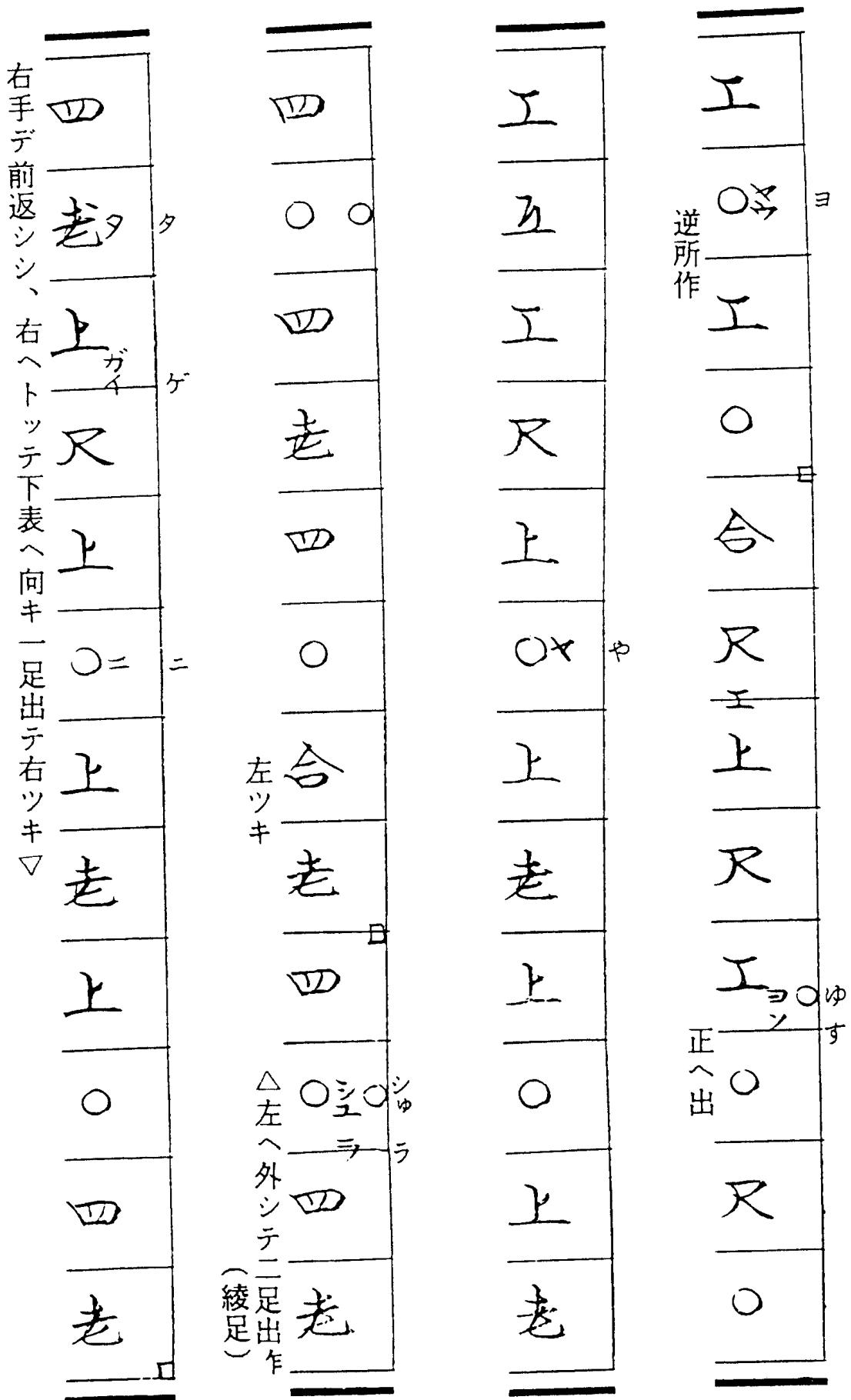


四 老 合 合 老 上 尺 上 老 上 尺 上 老 上 尺 上 老 上 尺 工 工 尺 工 合 走 上 上 工 工	ヤ や 口 コク リ ン 老 デ 左 ヘ トツ テ 下 裏 へ 向 キ 行 キ オ ミ ミ





工	四	上	上
○ヤ 工	○ 合	○ヌ 左 上	○シ○し 逆所作△↓▽
尺	老	老	尺
工	上	上	工
老 ジュ	○ハ○ハ 上	○ 老	○
上	上	上	尺
老	尺	老	○
四	工	四	工
○ラ○ラ 四	○イ 工	○○ 四	五
四	工	四	工
老	尺	老	尺



四	○	上	工	尺
合	○	上	工	五
老	○	老	尺	○
四	○	上	工	工
左 へ ト ッ テ 正 へ 向 キ	○ア ヌ	○	○	五
四	○	上	工	尺
老	○	老	尺	○
四	○	四	工	合
左 手 招 キ 手 シ テ 左 ツ キ	ム	○○	リ	尺
老	ム	四	工	尺
上	ザ ツ	老	尺	合
尺	ツ	王	王	尺

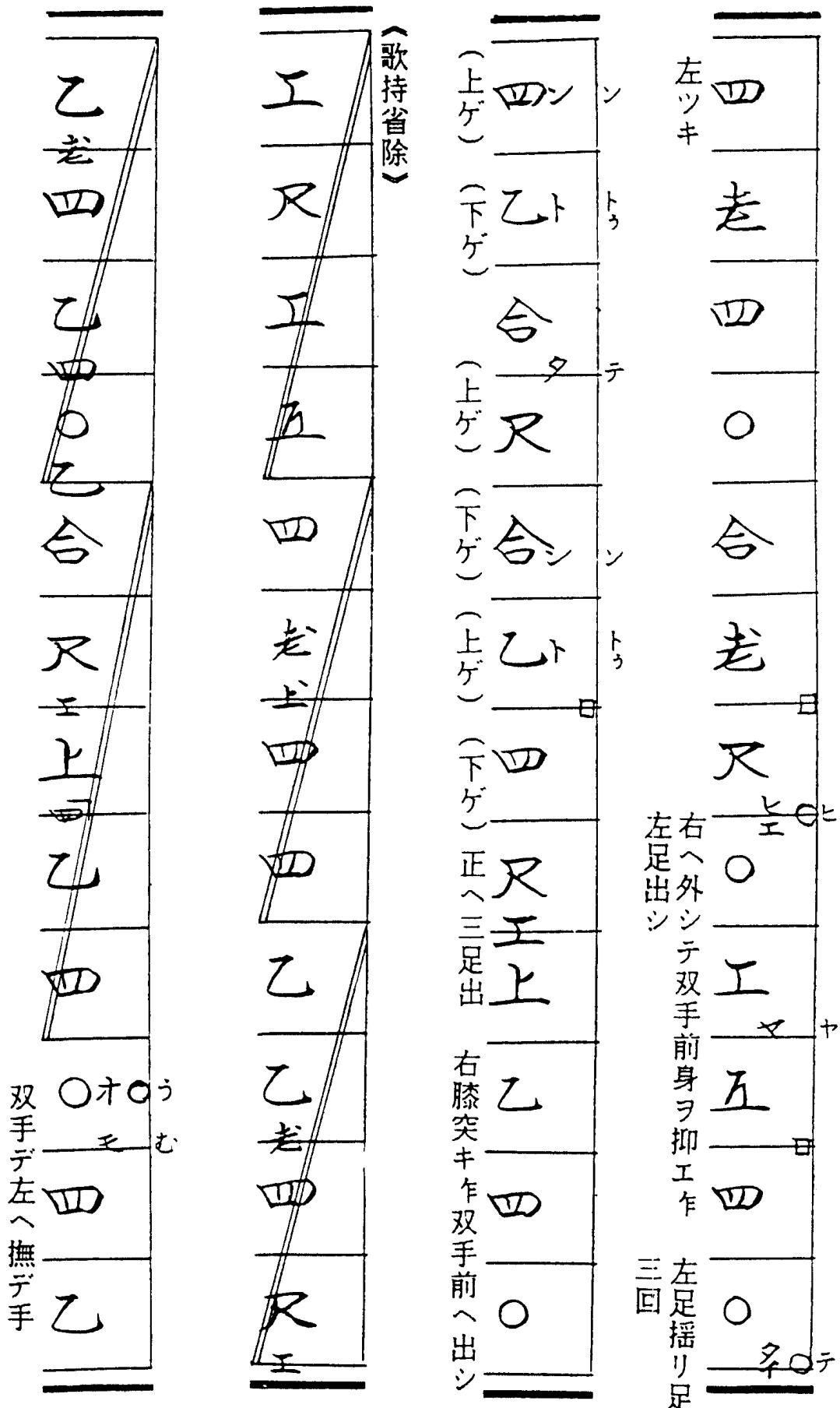
手オロシ
正中デ組ミ指シ乍右ヘトツテ正ヘ振返り(綾足)
ち

左ヘトツテ裏ヘ向キ乍
り

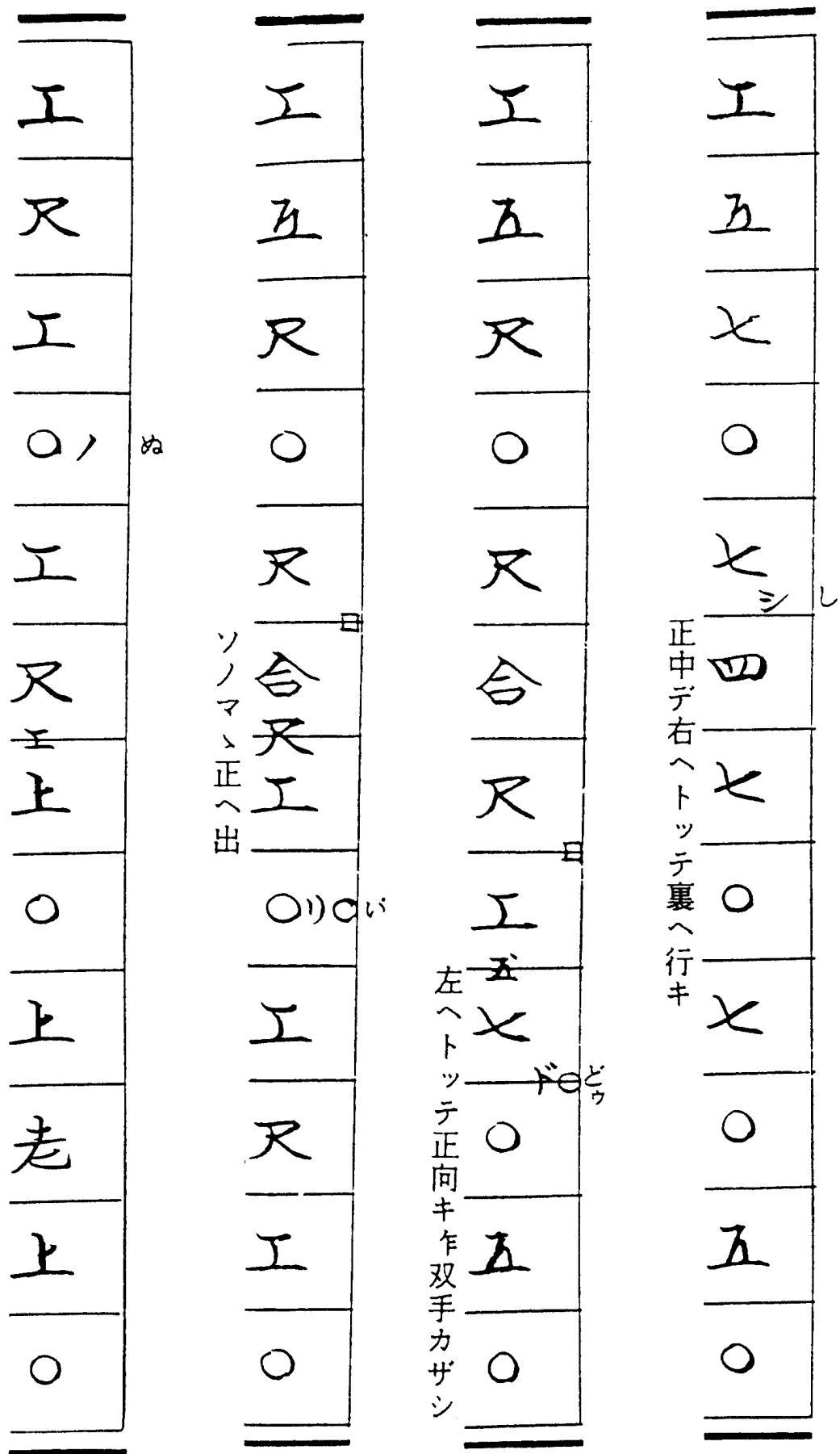
裏ヘ行キ
ゾ

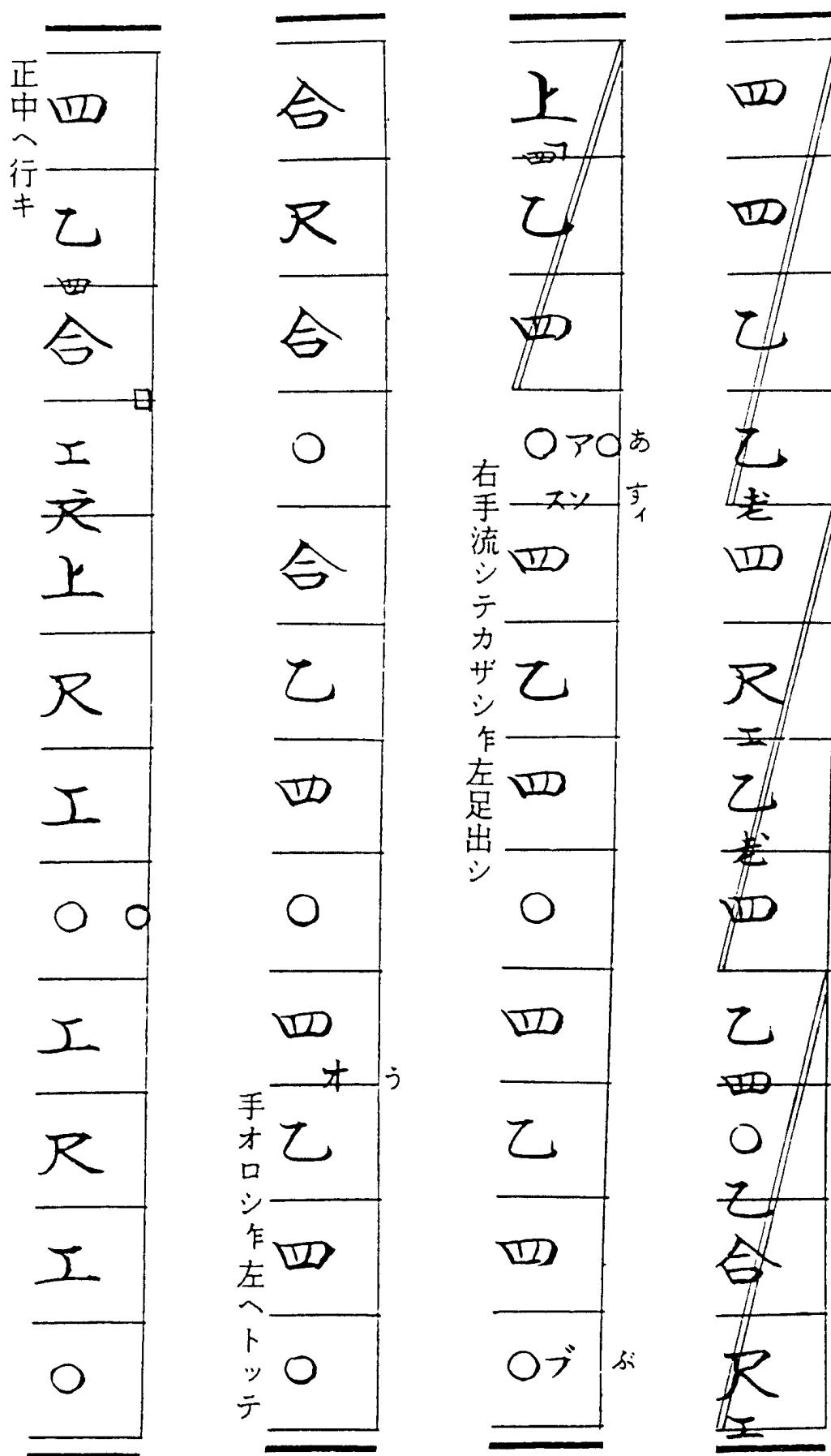
左ヘトツテ裏ヘ向キ乍
ゾ

七	工	四	四
○	○ ○	○	○
七	工	四	四
○	尺	乙	乙
五	工	四	四
○	○	○	○ヒ
工	工	四	合
五	五	乙	尺
尺	七	合	合
○	○	エ	○
尺	七	天	合
合	四	上	合
		ソノマハ立チ	
		ぬ	
		右ヘトツテ	
		ぬ	



四シ	シ	上	上	右ツキ
乙		老	尺	
合		四	工	
○ア○ア		○テ○ラ	○イ	イ
マ				
合		四	工	四
尺		老	尺	老
合		四	工	四
乙カ	カ	○	○ア	○
四		乙	工	合
上		三	尺	老
四		○	工	上
○タ	ヨ	四	尺	
		テ	工	
		上	老	





四		合	四
尺	○	乙	○
工	○	四	乙
上	○	上	五
乙	○	四	四
四	○	四	三
○	○	○	上
工	○	四	四
尺	○	四	シ
工	○	四	乙
五	○	老	四
四	○	四	合
老	○	○	合
上	○	合	尺

逆所作

右へ外シ、上表へ向キ 双手前返シヨシ乍左足出シ

ツキ返シ（左ツキ）

カ

中テ左ヘトツテ上表へ向キ

シ

ラ

シ

マ

マ

▲歌持省除▼

工	四	上	工
〇ア ヤ	〇	〇	〇ケ〇 チ
工	合	上	工
尺	老	老	尺
工	上	上	工
老 シ ジゅ	〇ハ〇 ハ	〇	〇
上	上	上	上
老	尺	老	尺
四	工	四	工
〇ラ ラ	〇イ イ	〇〇 ロ	〇=
四	工	四	工
老	尺	老	尺

左ヘトツテ下裏へ向キ乍手オロシ

尺	七	工	四
工	○	○	○
五	七	工	四
七	○	尺	四
○	七	工	乙
五	○	五	四
七	○	工	乙
○	七	五	四
工	○	五	合
五	○	七	合
尺	○	○	エ
七	○	七	天
○	尺	○	上
尺	合	四	尺
合	尺	七	天
尺	天	四	上

右へトツテ下裏へ向キ、スグ左へ振返り乍左眺メ手(綾足)

上表デ右ツキ

ソノマツ上表ヘ行キ

(5) 天川

天川節 六百二十拍子 一拍子凡七厘八毫六分

歌持一繰返ス

工 尺 工 五 四 老上四 四 乙 老四 尺工

歌持デ角キリ出

乙老四 乙四 乙合 尺上四 乙 四 乙 老四 尺工

中テ踏ミトメテ女立チ

尺上四

乙 四

○ア○あ
マ ガ

四 乙

四 ○
四 乙 四 ○タ
合 尺 上四 乙 四 乙 老四 尺工

右ヘ外シテ双手前身ヲ抑工作上表ヘ向キ

六 下裏へ行キ	尺 ス	四 ヨ	七 ミ	六 ス
七 レリ	尺 ヤウ	走 シ	六 マレ	七 レ
○	中 シ	四 ナ	七 オ	○
七 シタ	○	○	八 ヒ	七 シタ
工 ン	右 ヘトツテ下裏へ向キ乍手オロシ	四 ササ	四 ツツ	工 ン
天 ガ	走 ササ	中 ヨ	七 モイ	天 ガ
中 ガ	四 ササ	六 ヨ	六 モ	中 ガ
尺 ナ	四 ササ	工 カ	工 カ	尺 ナ
○	中 シ	○	○	○
七 シタ	中 シ	ト ア	尺 ゲ	七 シタ
六 ソノマハ歌持デ退場	尺 シ	工 メ	尺 ゲ	六 ソノマハ歌持デ退場
七 シタ	中 ガ	六 ム	中 ゲ	七 シタ
○	尺 ナ	工 バ	四 ノ	○
【歌持】繰返ス		振返リ		マロな

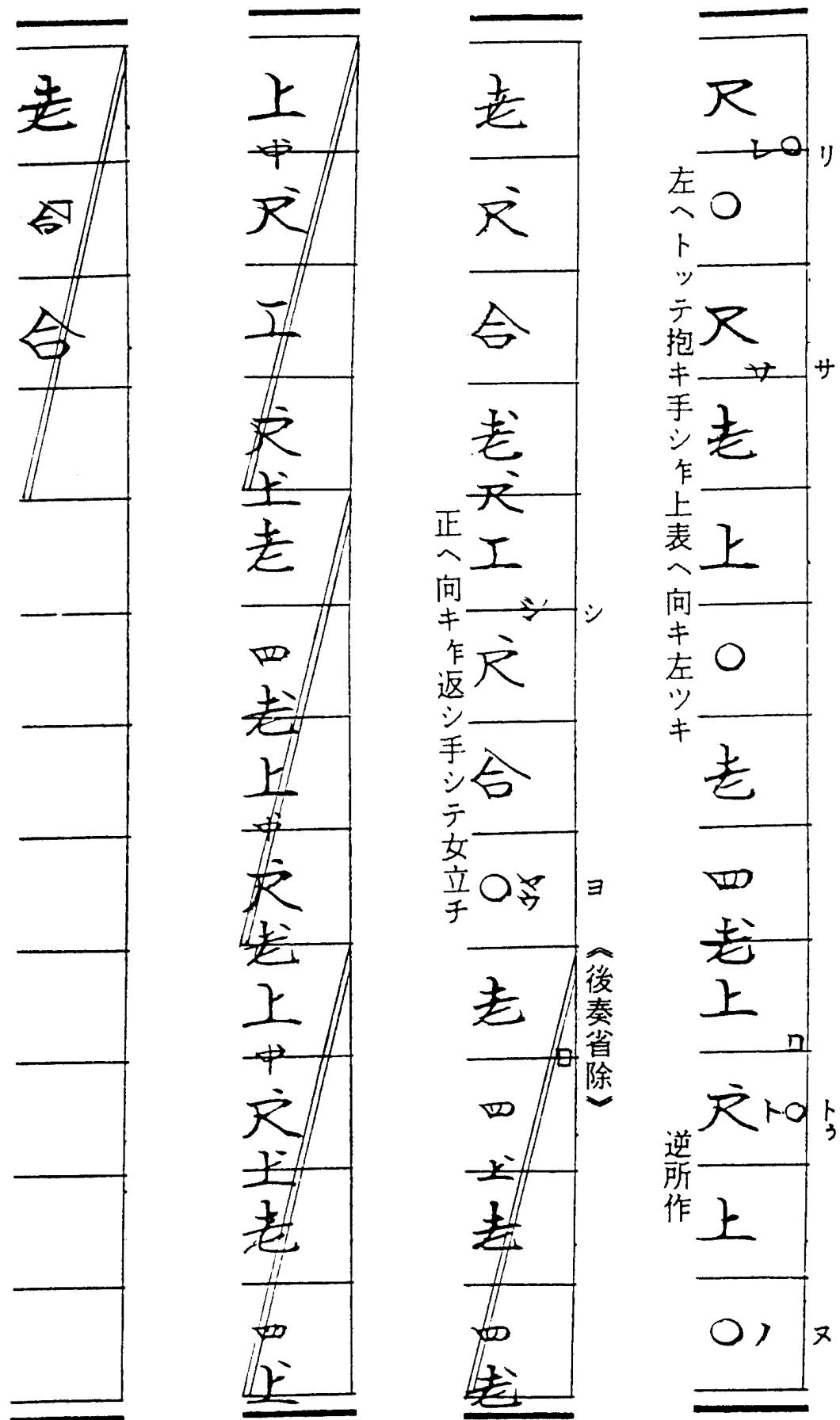
歌持

しょんがね節

百七十拍子一拍子凡六重五三六

尺	ノ	正先へ出	ヒフ	カ
中	マ		六	テイ
四	ビ		ヒ	オウ
○	リ		ハ	イ
四	左ヘトツテ上中へ行キ	口	キ	キム
サ	ハヤシ省除	口	六	
老	カ	イ	工	ヲカ
四	日	ハ	工	
中	シタ	口	○	
尺	ン	ノ	尺	ガジ
中	ガ	ト	ガ	
尺	ナ	六	中	
工	イ	工	四	デ
		メ	○	ヌ
		○		ロ

— 39 —



上	老	老	又
老	上	○	老
上	老	六	上
老	六	合	老
六	合	老	上
合	老	上	老
老	上	老	又
老	老	六	上
上	老	合	老
老	六	老	上
六	合	上	老
合	老	老	又
老	上	六	上
上	老	合	老
老	老	老	又
老	上	上	上
上	老	老	老
老	老	上	老

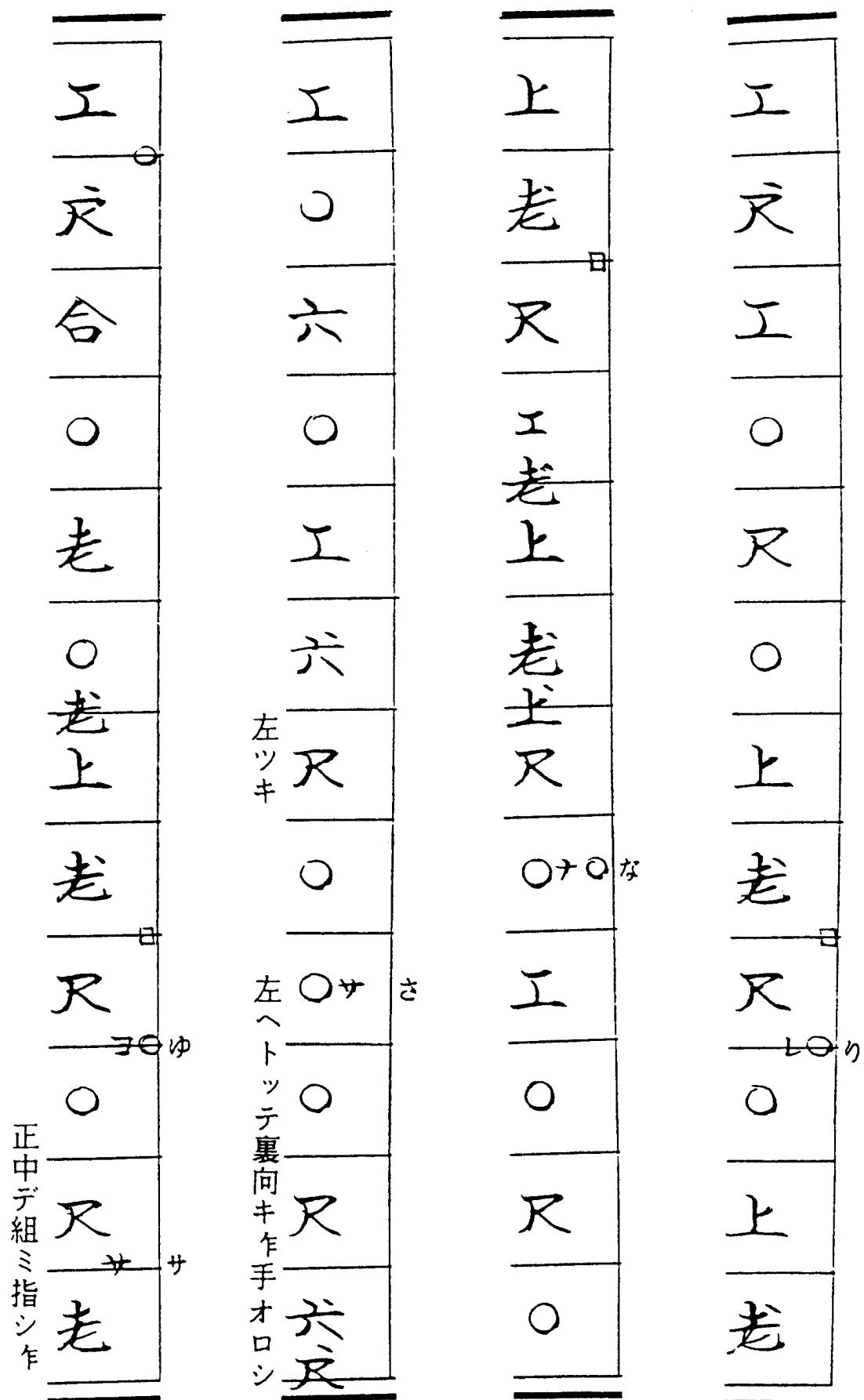
裏
へ
行
キ

(右ツキ)

左
ヘ
ト
ツ
テ
上
表
へ
向
キ
乍
袖
合
セ
、
ツ
キ
返
シ
(左ツキ)

左
ヘ
ト
ツ
テ
裏
へ
向
キ
乍
手
オ
ロ
シ





上	六	タ	六	タ
老	工	○	六	○
尺	尺	○	六	○
○	○	○	六	○
○ツ○	○ツ○	○	六	○
ソノマム正へ出(シズカニ)	右へ外シテ袖當チ	○	六	○
尺	尺	○メ	六	○ル
○	○メ	ミ	六	ル
尺	天	六	六	六
尺	上	六	六	六
○	○	六	六	六
工	老	六	工	○
○	老	六	尺	

△右足出シ乍双手前へ扱イ
△所作△△

△右足出シ乍双手前へ扱イ
△所作△△

△右足出シ乍双手前へ扱イ
△所作△△

△右足出シ乍双手前へ扱イ
△所作△△

尺	○	尺	○	上	○	工	○
工		工		老	○	老	○
六	ラ	六	ナ	上	老	上	老
六	ラ	六	ナ	老	六	老	六
六	ラ	六	ナ	尺	○	尺	○
六	ラ	六	ナ	○	○	○	○
合	バ	六	ラ	○	○	○	○
工		尺		○	○	尺	○
六	ビ	○		○	○	○	○
○	ビ	○		○	○	○	○

諸 鈍 節

三百二十七拍子 一拍子 又一拍四厘四絲

左 ヘトツテ正向キ、女立チ

目付(前下へ)

四 ○	合 工 四 乙 四 ○	四 乙 合 老 合 合 老 四 田 工 四 乙	四 尺 上 老 四 ○ 四 合 老 四 田 工 四 乙	工 五 工 尺 上 尺 上 老 上 中 尺 上 老 上 中 老
トメテ女立チ(裏向キ)	左ヘトツテ上表へ向キ、女立チ	正中デ左ヘトツテ裏向キ、歌持デ裏へ行キ、踏ミ	正中ヘ出	左ヘトツテ下裏へ向キ行キ
	【歌持】繰返ス			

上	上	上	合
尺	尺	老	尺
上	合	上	合
老	○	老	○
上	合	上	合
老	○	老	○
上	尺	上	合
老	尺	老	老
上	工	上	四
尺	合	老	四
工	尺	上	合
合	工	尺	老
尺	合	老	上

(4) 諸 鈍

仲 間 節

西三十九子

西十九九五六七茶

【歌】持
繰返ス

工

四

工

四

乙

四

老

上

尺

上

尺

歌持テ角キリ出、中テ踏ミトメテ女立チ

上 ○

老 上

上 ○

老 四

上 ○

老 四

上 ○

老

改メテ歩ミ出

上
尺
上
○
上
尺
四
乙
合
○

上表テ左ツキ
ヨ

合	老	上	上
○	オウ	デヤ	ニヤ
五	尺	○ン	○
尺	リ	ン	ニヤ
工	エ	ナ	ナ
合	サ	ナ	ナ
メ	ミ	ナ	ナ
○	ヨ	○	○
老	シボ	セツ	セツ
四	シウ	ヨ	ヨ
老	テラ	老	セツ
四	ラ	セツ	セツ
老	ヨ	合	メ
上	ヨ	○	メ
老	ハハ	老	セツ
四	イイ	四	セツ
老	ハハ	上	シウ
上	ヨ	上	ラ
老	ヨ	老	シウ
尺	フフ	尺	シウ
○	イイ	上	ラ
老	ヨ	尺	シウ

二足出テ右ヘトリ
(一足出テ左ツキ右ヘヒネツテモ)

歌持デ退場

【歌持】繰返ス

右ヘトリ裏へ行キ

(繰返シ) 払イ手シ乍左へ足ヲ使イ右へ外シテ右ツキ

左ウケテ切返シ

上 ル む 右ヘトリ正向キ乍シトメ (右ツキ、シトメニモ)	尺 フ フ 裏へ行キ	老 ド ド 四 老 上 ド ド 右ヘヒネツテ裏向キ乍 团扇オロシテ常持チニ直シ	上 ド ド 老 ノ ノ 上 ア ア 老 ヌ ヌ 上 シ ブ 尺 テ ラ 工 ワ ヨ 老 ヤ ヨ 工 マ ヴ 老 サ ヴ 工 サ サ 老 サ ガ 四 サ 老 サ 尺 メ ミ 工 メ ミ 老 イ あ 工 ロ ヴ
合 イ 老 オ 工 ウ 尺 レ リ 工 サ サ 老 サ 四 老	上 イ 老 オ 工 ウ 尺 レ リ 工 サ サ 老 サ 四 老	上 イ 老 オ 工 ウ 尺 レ リ 工 サ サ 老 サ 四 老	上 イ 老 オ 工 ウ 尺 レ リ 工 サ サ 老 サ 四 老

裏 へ行 キ	尺	右 ツ キ	老	眺 メ 扇	工	正 向 キ 乍	四	ヤ ヨ
○			○		○		○	
尺		右 ヘ ト ツ テ 裏 向 キ 乍	五 イ ロ イ		○	ハ ム	四	
○		團 扇 上 ヨ リ オ ロ シ テ 常 持 チ ニ 直 シ	ビ ヤ ヤ		○		老	
五			五 マ マ		ソ ノ マ 、 正 へ 出		四	
○			尺 タ タ		○		○	
工			工		尺		○	
五			老 ヲ ヲ		○		四	
工			工 レ ル		上		上	
尺			尺		老		上	
上			工		四		上	
行 キ 乍	○ バ ティ		○		○ ル ン		尺	

四 尺 工 五 工 五 工 ○ 四 ○ 老 尺 ムン 合 左 トリ	イ イ ヤ ヤ 上 尺 王 上 尺 上 老 四 メ 四 老 ガ ガ	五 工 五 工 尺 王 上 尺 上 老 四 メ 四 老 ガ ガ	ト ぬ スグ オロシ 正 ヘ 一 足 出 テ 右 ツ キ 乍 团 扇 カ ツ ギ ス グ オ ロ シ （ ナ シ ニ モ） 右 ヘ 外 シ テ 正 ヘ 直 シ 乍 团 扇 カ ザ シ 左 ヘ ト ツ テ 裏 向 キ 正 ヘ 一 足 出 テ 右 ツ キ 乍 团 扇 上 ヨ リ オ ロ シ 右 ヘ 一 足 出 テ 右 ツ キ 乍 团 扇 上 ヨ リ オ ロ シ 正 ヘ 一 足 出 テ 左 ツ キ 乍 八 七 六
--	---	--	---

四	工	上	工
加 <u>ウ</u> 左へ一足出テ左ツキ乍 老	○イイ 四	尺 上 老 四	五 工 尺
ハ <u>マ</u> 團扇上ヨリオロシテ伸シ持チ	○ヤヤ 老	ムン 合 老	上 口
ル <u>ン</u> 右へトリ正向キ (左へトツテモ)	アワ 尺	ガガ 四	マ <u>ユ</u> 切返シ
老 四 コ <u>チュ</u> 四 老	ガ <u>ヨ</u> 四 シトメ 老	日 四 日 四 五	上 尺 工 五 工

③ 女特牛節

特牛節

二百七十三拍子

凡九厘一毛

【歌持】繰返ス

五

尺

工

老、尺上

老

四

老

工

歌持デ出、裏デ正向キ女立チ(立直リニモ)

繰コミ

○

尺

五

工 尺 王 上

老 四

○十 あ

四

老

四

○

合

日 六

正へ出

七 ○

六 ○

七 ○

八 ○

七 ○

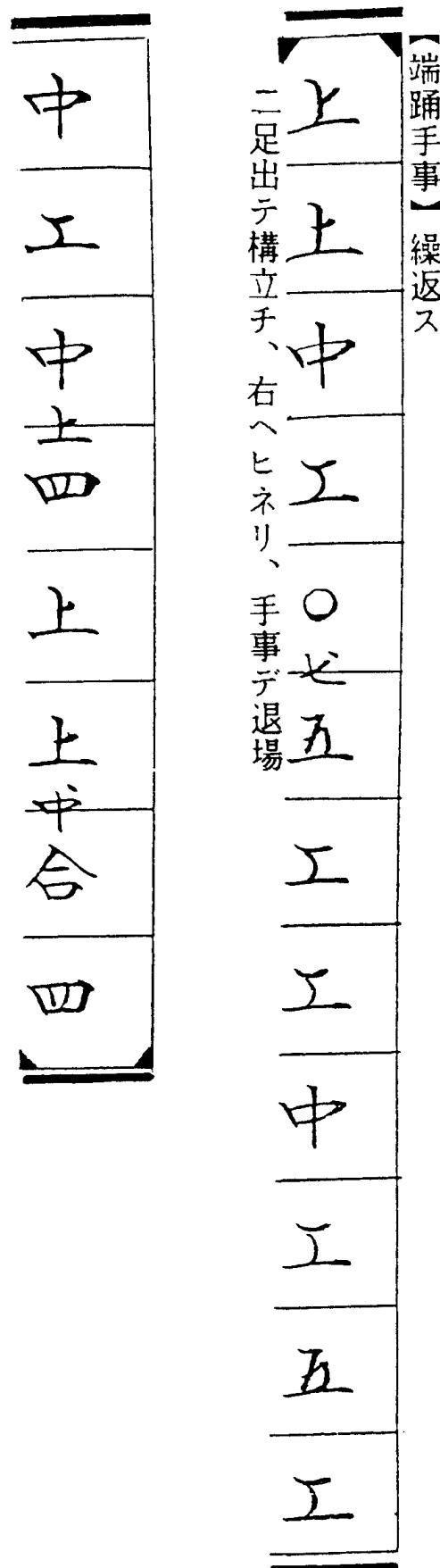
六 ○

工 ○

○ル る

尺 ○

右ツキ



合	老	上	上
○	オ	ヂヤ	○
五	尺	○ン	ニヤ
腰沈メテ扇タタミ、シトメ	リ	ナ	ウ
【歌持】一回	サ	ナ	リ
尺	工	老	上
工	合	○	○
老、尺、上	老	老	老
老	四	上	上
四	老	老	老
老	四	合	合
老	老	老	老
老	上	上	上
老	四	四	四
老	尺	上	尺
シトメ	フ	ヤ	シ
	イ	ヤ	ラ

上	尺	老	上	老
ル る	フ フ	ド ド	ア ア	ノ ヌ
○	○	○	○	○
右ヘトリ正向キ、一足出テ右ツキ シトメ	裏ヘ行キ乍扇常持チニ直シ	右ヘヒネツテ裏向キ乍扇オロシ	扇カザシ乍左ヘトツテ正ヘ振返リ（綾足）	扇逆持チ
合	老	上	上	老
イ イ	シ シ	ド ド	シ シ	ノ シ
○	○	○	○	○
合	老	尺	工	尺
シトメ	シ シ	フ フ	ウ ラ	フ ラ
老	上	老	工	工
オ ウ	シ シ	オ ウ	ヤ ヨ	マ マ
○	○	○	○	○
工	尺	工	工	老
オ ウ	レ リ	ウ サ	マ マ	イ イ
○	○	○	○	○
工	老	四	工	老
サ サ	サ サ	メ ミ	ウ ウ	イ イ
○	○	○	○	○
工	四	老	老	口
メ ミ	シ シ	シ シ	シ シ	ル ル
○	○	○	○	○
尺	老	四	工	口
リ リ	シ シ	シ シ	マ マ	ル ル

膝 変 工 作 切 返 シ	尺	老	工	眺 メ 扇	四	四	老	四	扇 胸 元 デ 左 手 ニ 取 リ
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
立 チ	尺	五	ハ	は	四	老	四	四	四
	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	五	ビ	マ	ソノマ、出テ左ツキ、右膝突キ	五	上	老	上	上
	○	ヤ	マ	、	タ	尺	四	モ	モ
	工	五	工	、	○	尺	四	○	○
右 ヘ ト リ 裏 ヘ 行 キ	五	老	老	、	○	上	老	上	外 シ、正 ヘ直 シ乍
	工	工	工	、	○	上	四	上	
	尺	尺	尺	、	○	老	四	尺	
	上	工	工	、	○	四	四	尺	
行 キ 乍	上	○	○	、	○	ル	四	尺	
	○	バ	バ	、					

四 イ	工 イ	工 ト さ	四 ト 合 ウ
尺 イ	五 サ さ	尺 ト 正 ハ 一 足 出 テ 右 ツ キ 乍 扇 カ ツ ギ ス グ オ ロ シ	六 ト 合 ウ
工 ヤ ヤ	工 尺 王 上 尺 上 老 四 尺 ム ン	左 ヘ ト ツ テ 裏 向 キ	七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
五 ヤ ヤ	尺 王 上 尺 上 老 四 尺 ム ン	正 ハ 一 足 出 テ 右 ツ キ 乍 右 ヘ 外 シ テ 扇 ツ マ ミ	七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
工 イ	上 老 四 尺 ム ン	正 ハ 一 足 出 テ 右 ツ キ 乍 正 ハ 直 シ 乍	七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
四 イ	老 ワ ン	裏 ヘ 行 キ	七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
○ ヤ ヤ	四 メ ミ	正 ハ 直 シ 乍	七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
老 ワ ン	老 ガ ガ		七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
尺 ム ン	四 メ ミ		七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト
合 サ サ	老 ガ ガ		七 ト 六 ト 七 ト 六 ト 七 ト 八 ト 七 ト 六 ト

四	工	上	工
かわ 右へ外シテ扇ツマミ	○イイ 四	尺 上	五 工
○ハ 老	○ヤヤ 老	老 四	尺 工
○ 上	○ワ 尺	○ノ 四	上 尺
ル 左へ一足出テ左ツキ乍扇上ヨリオロシ	ワ 合	ノ 老	マ 上
尺 上	ム 老	四 老	マ 切返シ
老 四	ソ 合	四 老	上 尺
四 老	ガ 老	四 四	工 五
コ 四	ヨ 四	四 尺	五 ツ
四 老	シトメ 老	ヤ 工	工 尺

② 特牛節

特牛節 二百七十三拍子 凡九厘一毛

【笛太鼓出端手事】繰返ス

イヨー 天 ハ ○ ハ ○ ハ ハ イヨー 天

太鼓二合ワセニ足出

三足目ヲ出シ揃工

足打ツ 繰返ス

歌持二回

五

尺

工

老天

上

老

四

老

四

○

尺

五

(一回目) 正向キ構工立チ
(シトメシテモ)

(二回目) 腰沈メ扇広ゲ、シトメ

繰コミ

工

尺

工

老天

上

四

老

四

○

合

六

正へ出

ナ

七
○
六
○
七
八
七
六
工
○ル
尺
○

右ツキ

八
わ
尺
工
老天
四
○ナ
四
老
四
○
合
六

四 ○ 工 五 田 工 四 乙 四	合 ○ 合 合 老 四 尺 上 老 四 乙	上 尺 工 五 工 尺 工 上 老 四 上 老	工 合 天 工 合 尺 工 五 工 尺 上 老
ナ ナ ナ ナ ト ト ト タ ト	ヨ ブ ヨ ト ウ ト タ ヤ タ ン ン	ツ オ ツ エ ユ エ タ キ タ タ ン	ナ ナ ナ ナ ツ ツ エ タ キ タ メ メ
シトメ 歌持テ二足出テ構立チ 右ヘヒネツテ下ヘ向イテ退場	【歌持】繰返ス 右ヘトツテ正向キ乍	シトメ 切返シ 裏ヘ行キ	(三回目) 一足出テ右ツキ

上尺	合	四老	四老
右ヨリ三足出テ構立チ——二回	左ヘトツテ正ヘ振返リザマ右打チ	右引イテ扇カザシ	ボ
工 合尺工	尺工○尺合	上老	四
五 工	工 四	老	老
尺	乙	四	四
工	四	○	老
尺	乙	四	四
工	四	上	尺
尺	○	四	上
工	四	四	老
尺工	老	乙	老
上尺	四	四	四
尺	老	四	老

上 老 四 乙 四 ○ 四 老 四 ○ 四 上	四 上 四 乙 合 ○ 合 合 老 四 老 四 尺	上 老 四 老 上 尺 ●工 五 工 尺 上 老	工 尺 ●上 尺 工 合 尺 工 合 尺 工 五 工 尺
左ヘトツテ正向キ乍シトメ 招キ乍ニ足出テ右ツキニ二回	タ た シ ナ ロ ハ リ エ トウ トウ ツイ	メ ナ ロ ク ロ ク ナ フ イ ウ キ ヤ	右足打チ 逆所作 (下表へ三足出テ右ツキ) ナ ナ ナ フ イ ウ キ ヤ

四 ○ 四 老 上 尺 工 合 五 工 尺	上 老 上 尺 上 老 四 老 四 乙 合 合 老	七 八 七 五 工 尺 工 五 工 尺 工 尺 七 ○	四 老 上 尺 工 五 工 尺 工 五 七 ○
(上表へ三足出テ左ツキ)	右ヘトツテ正向キ乍シトメ 裏ヘ行キ		切返シ

① かじやでい風

かじやでい風節 二百二十五拍子一拍子凡九厘一毛

【歌持】繰返又

歌持デ出、裏デ正向キ構工立子
工 五 四 工 四 乙 四 合天工 繰コミ ○ 工 五

工 木 ふ
又
工 合 尺 工 五
工 尺 ヲ ク
工 合 尺 工 テ ラ
五

工尺上老四老
工尺上老四老
工尺上老四老
工尺上老四老
工尺上老四老
工尺上老四老
工尺上老四老
工尺上老四老

古典琉球舞踊譜

①かじやでい風

(真境名由康・島袋光裕所演による)

②特牛節

(高嶺久技・糸満和美所演による)

③女特牛節

(島袋君子・喜納幸子所演による)

④諸鈍

(宮城幸子・佐藤太圭子・真境名佳子所演による)

⑤天川

(玉城秀子・金城千寿子所演による)

41

29

23

15

9

譜語による舞踊譜を作成するには、そのための楽譜が必要である。古典琉球舞踊の場合は、地謡である歌三線の譜の工工四を用いることになる。歌三線には、現在二流派五団体があり、それぞれに工工四を発行している。舞踊譜に用いる楽譜は、なるべく簡略な形のものが都合がいいので、安富祖流絃声協会の本（絃声協会本）を使用させていただくことにした。舞踊の地謡の歌詞は、演目によって、工工四に記された基本詞章とは異なる詞章（代替詞章）を使用する。また、基本詞章を用いる演目でも、絃声協会本は昔どおりの仮名使いで詞章を記してある。そこで、工工四の詞章の横に、実際に発音されるとおりの仮名を書き添えた。なお、繰り返される歌持^{うたもち}の部分は、【】で括り、横に【歌持】と記した。また、舞踊の場合に省く部分は、二重斜線で消し、《歌持省除》などと添記した。

古典琉球舞踊は、基本的な所作構造が演目ごとに定まっているが、細部の扱いは、演ずる人によってかなり相違する。例えば、首の角度とか、腕の高さとか、手のひねりかたとか、指の扱いとかまでを、舞踊譜で規定する必要はない。自分で工夫できない初心者には、師が指導すればよいので、舞踊譜の目的は、あくまで所作の構造を示すことにあら。しかし、部分によつては、所作単元の選択に及ぶ個人の違いが見られる。例えば、女踊で立チ直リをするかないかなどである。こうした違いに気付いたときには、一方を譜の本文に記し、他方を「何々ニモ」と書き添えることにした。

この舞踊譜は、ビデオテープによる採譜に基づいて作成した。このビデオテープは、日本放送協会沖縄放送局の御好意により、本学にコピーを提供していただいたものである。採譜の結果は又吉静枝氏にお見せして、ご自身の所作との相違点などを伺い、またビデオでは分かりにくかった点などについて、舞踊家としてのご助言を戴いた。まことに感謝に耐えない。また、日本放送協会沖縄放送局と安富祖流絃声協会に、ここで改めてお礼を申し上げる。

本稿に舞踊譜を掲載した五演目の演者は次に記したとおりである。奏演年月日は現時点では判らないものが多いが、いずれも「沖縄の歌と踊り」などの時間に放映されたものである。

譜語による記述の例として、まず「かじやでい風」と「特牛節」の始めの部分を比較して掲げる。○印を付けた譜語が旧来の名称、△印を付けた譜語が、新命名の名称である。これを見ると、両演目の冒頭部分の所作が全く同じであることとか、シトメによる段落の置きかたとか、舞踊の構造を一見して概観できる。

かじやでい風

特牛節

○歌持デ出 裏うちデ正向キ 構立チ』

笛・太鼓デ出ル（二足出テ足ツキ、足打チ、繰返ス）

○歌持デ正向キ構立チ 同二回目デ腰沈メ扇広ゲ

△シトメ』

△繰コミ 正ヘ出 ○右ツキ △シトメ』

△切返シ 裏ヘ行キ 右ヘトツテ正向キ乍

△シトメ』

△繰コミ 正ヘ出 ○右ツキ △シトメ』

△切返シ 裏ヘ行キ 右ヘトツテ正向キ乍

△シトメ』

△サユウ（上表へ三足出テ ○左ツキ）○右足打チ

逆所作（下表へ三足出テ ○右ツキ）○左足打チ

△扇カツギ 左ヘトツテ裏ヘ行キ 左ヘトツテ

正向キ乍△シトメ』

右ヘ外シテ扇ツマミ 左ヘ一足出テ ○左ツキ乍

扇上ヨリオロシ

右ヘ一足出テ ○右ツキ乍

扇上ヨリオロシ

正ヘ一足出テ ○左ツキ乍

△扇カツギ、スグオロシ

正ヘ一足出テ ○右ツキ

右ヘ外シテ扇ツマミ

正ヘ直シ乍△扇カツギ

左ヘトツテ裏向キ

裏ヘ行キ 左ヘトツテ

正向キ乍△シトメ』

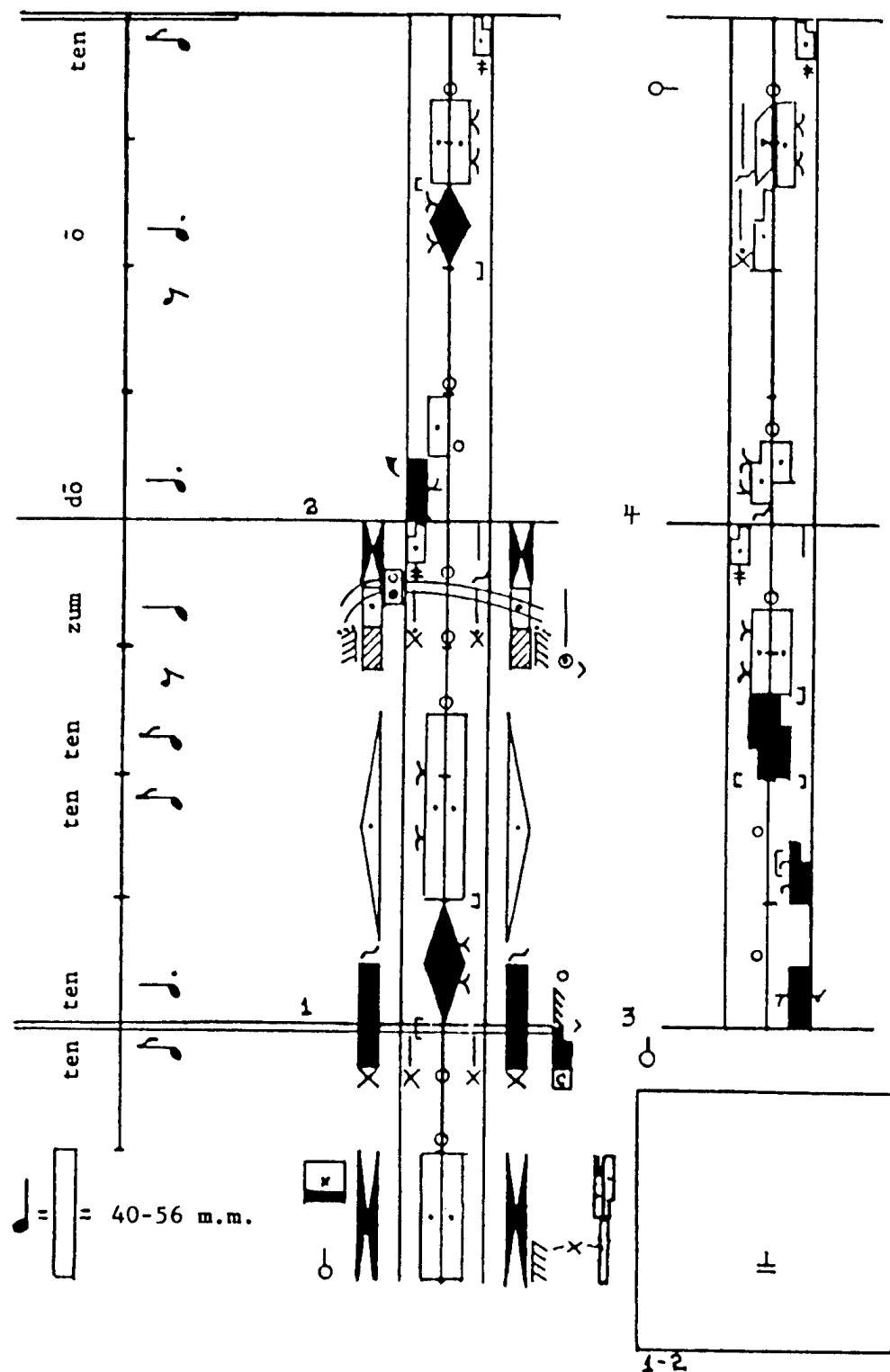
の一部分を前ページに掲げた。琉球の民俗舞踊の「太鼓」などを採譜するために考案した小林公江氏の舞踊譜（未刊）は、これよりもはるかに見やすい譜だが、やはり動き 자체を記号化した譜である。これらはそれに研究上有意義な舞踊譜なのだが、単元構造の舞踊の場合、一見して全貌をとらえるという点では、譜語を用いる舞踊譜のほうが利用しやすいと考えられる。それに、動きを記号化する方式では、例えば五歩前進と六歩前進は別個の記載となり、数歩前進というような記載がしにくい。一人で演ずる日本の古典舞踊では、その場で演技者の体が自然にその足数に決まっていくので、予め足数を決めるのはごく初心者の場合だけである。つまり記号譜は、研究上の記述譜としては有力であるが、規範譜として古典舞踊の実用に供するには、譜語による文字譜のほうが使用しやすいのである。いずれにせよ、楽譜なしの音楽研究はないように、舞踊研究も舞踊譜の作成から始めることが望ましいと言える。

古典琉球舞踊は、舞楽や能と同じく単元構造の舞踊である。そして個々の所作単元の名称もあるが、その数がごく少ないために、既存の単元名だけでは譜語による舞踊譜を作成できない。そこで、実際の舞踊の所作から所作単元を抽出して名称を与え、それを譜語として舞踊譜を作成しようというのがこの試みである。例えば、男役の演目では、所作が一段落するところに、右手を右上に上げて常の構えに戻すという所作があり、この所作はどの演目にもかなり出て来るが、今まで名称がなかつた。そこで、能におけるこれに対応した所作の名称を借用して、シトメと名付けることにしたのである。

沖縄タイムス社の提唱で一九五七・八年に行われた型の研究会でも、こうした命名が試みられたことがあり、その名称が『琉球古典舞踊の型』（一九七六 沖縄タイムス社）に掲げられているので、今回もその名称はなるべく採用することにした。しかしその数が少なく、例えば上記のシトメに相当する名称がないので、今回かなりの数の新名称を案出せざるを得なかつた。それらを含めて、使用する譜語全部の表を掲げたいのだが、ページ数の関係で少數の演目の譜しか掲げられないでの、そこに出で来ない譜語を並べても、理解していただきにくいたまうし、掲載の演目に出る譜語だけでは中途半端なので、一覧表の掲載と個々の譜語の解説は、次の機会に譲ることにした。

納曾利破
NASORI NO HA

芭子の芭子型
Rhythmic pattern: agebōshi.



羽衣

中左右 行掛り 打込 開 地上二三三一
東遊のカモ よ。 東遊の数
サシ込 開 角へ行
よ。その名も月の色人アマシヒト。 五夜
角トリ 右ノ上ヲ見 左ヘ大キク廻リ
中の室又満月真如の影と
太小前ニテ正ヘ向サシ込開
ち。 願圓滿國土成就。 七寶充
アホギ乍正先ヘ出テ開キ
滿の寶を降ら。 國土又これを。
正後アハタ開扇平ニテヨリ前ヘ出扇下シ乍左ヘ廻リ
施 給ふする程又時移り
正後アハタ開扇平ニテヨリ前ヘ出扇下シ乍左ヘ廻リ
シテ杜ニテ

羽衣

古典琉球舞踊譜の試み

横道萬里雄

舞踊には、単元構造の舞踊と非単元構造の舞踊とがある。舞楽や能や古典バレーでは、構成要素となる所作単元があつて、その所作単元の積み重ねで舞踊全体が作舞されている。一方、モダンダンスのように、特定の所作単元というべきものもなく、自由に作舞される舞踊もある。また歌舞伎系の踊りのように、基本の所作単元があるが、それが部分的に変形されて構成される場合が多いという種目もある。

舞踊の演目には、ごく短い数分のものから、数時間に及ぶ長大なものまであるが、単元構造の舞踊の場合は、構成要素である所作単元の長さは、一単元が数秒から数十秒の長さで、一分を越えるものはまれである。

舞楽や能では、所作単元の大部分に特定の名称が付いていて、それを書き連ねることで舞踊譜を作成している。舞踊譜に用いる単元名は、工^{くわん}四^{よん}などの文字譜における譜字に相当し、これをわたくしどもは、『標準日本舞踊譜』（一九六六 柏出版）以来譜語と称している。譜語を用いる舞踊譜の場合、心覚え程度の譜には、単に譜語を書き流したものもあるが、現在公刊されている舞踊譜では、音楽との相関関係を明示するために、楽譜の傍らに譜語を書き添える形をとっている。次のページに掲げるのは、能の「羽衣」の中で天人が舞いながら昇天する部分の舞踊譜で、観世・喜多二流を上下に対照して示した。譜語を読解できれば、これによつて、両流の所作の構造と、その同一点・相違点などを、一見して知ることができる。

舞踊譜には、ラバノーテーションのように、身体の動きそのものを記号化して記述する記譜法もある。その例として、ハワイ大学のカール・ウォルズ教授による、舞楽「納曾利」のラバノーテーション譜（『雅樂界』第五三号所収）